

「教育の質保証」実践セミナー

福岡 10/18 (水) 大阪 10/19 (木) 東京 10/20 (金)

<セッション1> 13:00~14:20

戦略的に「教育の質保証」に取り組むとは？

～ IRの出てきた文脈を考えると見えてくる ～



近年、「教育の質保証」の取り組みが急速に整備されました。しかし、負担感だけが増し、成果に繋がっていない学校も多く見受けられます。特に、IRに関しては、各校でIR室を設置したものの、どのような取り組みを進めるか苦慮する現場担当者の声を多く聞きます。

一見、バラバラに見える、認証評価の開始、IRの導入、教授会の役割の明確化や、3つのポリシーの一体的策定など、様々な取り組みを「教育の質保証」という一つの文脈でとらえなおすと、すべてが整合性のとれた一つのシステムであることに気が付きます。そして、IRにより全体を駆動させる仕組みが見えてきます。

- ・「教育の質保証」の各取り組みを、中期計画に沿った成果を出すためのプロセスとして活かす方法を、具体的にイメージできるようになります。
- ・IRに込められた政策意図を正しく捉えなおすことで、自校において次に取り組むべき戦略的動きが見えてきます。
- ・「教育の質保証」に人を巻き込むための分かりやすいストーリーや言葉が手に入ります。
- ・競争的資金獲得の際にも、効果的な企画を立案できるようになります。

<セッション2> 14:30~15:50

いま求められる卒業時の質保証

～ カリキュラムマネジメント・サイクル確立に向けた実践事例 ～



「卒業時の質保証」とは、一体何をすれば卒業時の質保証をしたことになるのでしょうか。近頃、3つのポリシーと併せて、アセスメントポリシーの策定と運用の重要性を指摘する人が増え始めています。また、最近の大学教育においては専門性を育成するだけでなく、「ジェネリックスキル」や「学士力」の育成も求められるようになりました。しかしこれを、カリキュラム上に、どのように位置づけ、どのように育成すればよいのか。また、育成した力をどのようにアセスメントすべきか。これらの問題は厳密に取り組もうとすればするほど整理がつかなくなり、多くの学校が苦勞されています。

本セッションでは、多くの学校関係者と試行錯誤しながら見えてきた解決策と、カリキュラムマネジメント・サイクルの確立に向けて進む最新の取組事例をご紹介します。

- ・「何をすれば「卒業時の質保証」をしたことになるかを理解し、カリキュラムマネジメント・サイクル確立に向けた具体的なプロセスをイメージできるようになります。
- ・カリキュラム上、「専門性」と「ジェネリックスキル」・「学士力」をどのように位置づけ、整理するとうまくいくか、具体的な方策を知ることができます。
- ・カリキュラムを通じて育成した力を、どのようにアセスメントすれば現実的な運用に乗せることができるのか、その実践事例を知ることができます。

<セッション3> 16:00~16:35

事務負担を増やさず学修支援体制の充実を図る挑戦

～ 各校の取組を支えるシステム活用事例 ～

ただでさえ忙しい学校運営において、既存業務に加え更に学修支援体制を充実させることは至難の業です。本セッションでは、次の2つの観点から、多くの大学関係者と試行錯誤して改善を重ねているシステム活用事例をご紹介します。

- ① 事務負担を増やさずに学修支援体制の充実を図る
- ② 「有効活用したことで中退が減る」または「高校に対するアピールポイントが増えて募集改善につながる」などの効果により投資した以上の財務改善を目指す

教職員が連携して抜け漏れない学修支援体制を構築するための仕組

教務システム一体型ポータルシステム：APortal (エーポータル)

- ・教務システムを整備する費用で導入可能な教務システム一体型の学修支援システム
- ・教員がスマホからでも出欠登録でき、休みがち学生を早期発見、早期サポート
- ・学生の学びの状況を把握して適切なサポートに繋げ、履歴も共有

事務負担を下げ分析と改善に集中するための調査システム

授業アンケートにも対応：E2Survey (イーーツーサーベイ)

- ・調査項目は自由に設定でき、調査結果はリアルタイムに集計
- ・設定一つで調査結果を公開可能 (設問別/ユーザ属性別)
- ・スマートフォンから回答でき、授業アンケートにも対応



学生と教職員の距離を縮め、学生の成長過程が自動的に蓄積される

スマホアプリ対応型クラスSNS：Melly (メリー)

- ・授業別に教員と学生が手軽にコミュニケーションできるメッセージングツール
- ・資料配布、レポート課題の収集もサポート
- ・学生の発言、提出したレポートなど学修成果物は入学から卒業まで自動で蓄積

<セッション4> 16:45~17:45

<最新事例> 組織全体がチームとして動くための実践事例

～ 各校で進み始めた取組 ～



多くの学校をご支援して感じるのは、戦略を立てる以上に、戦略を組織に浸透し、実行することの難しさです。学校によって状況はさまざまであるため、何か一つの答えがあるわけではありません。しかし、意識の高い一部の教職員が個別バラバラに動いても、その成果は限られており、どこまで連携して動けるかが学校力の差になる時代になってきました。

本セッションでは、人材育成構想 (組織がチームとしてどのように学生を育てるのか) を教職員が率直に意見交換・合意形成する方法、カリキュラムマップを学科でしっかり共有し、カリキュラムマップを意識したシラバスを先生方にご準備いただく方法など、各学校で始まっている組織全体がチームとして動くための実践事例をご報告します。

- ・人材育成構想 (組織がチームとしてどのように学生を育てるのか) を教職員で率直に検討・共有する方法
- ・カリキュラムマップを学科でしっかり共有し、先生方にカリキュラムマップを意識したシラバスをご準備いただく方法
- ・中退予防、就職改善、募集改善などに一体的に取り組む方法